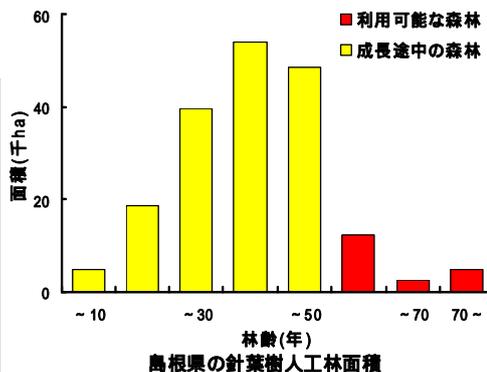


伐採した後の森林をどうする？

～ 森林から持続的に恩恵を得るために ～

研究の背景・目的

森林を持続的に利用するうえで樹木を植栽，手入れ，伐採して利用，そして再び植栽という一連の作業は重要です(右図)。近年，県内で広く植栽されたスギ・ヒノキなどが利用可能になってきており，今後これらが伐採，利用されることが予想されます(右グラフ)。ところが，コスト面から伐採跡地に再び植林されず，放置される懸念があります。そこで，本研究では低コストで実施できる森林の再生技術の確立を目指し



研究方法

放置された人工林伐採跡地の調査

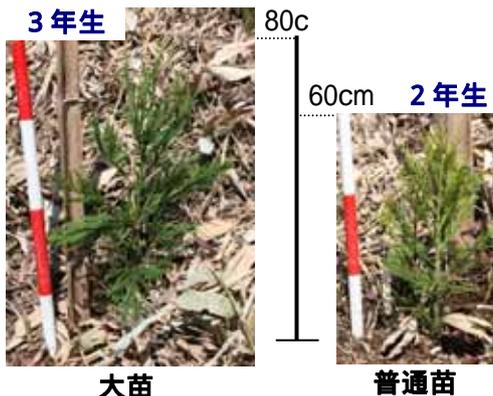
- ・ 樹木の種類，土地利用など

低コストでできる森林再生技術の試験

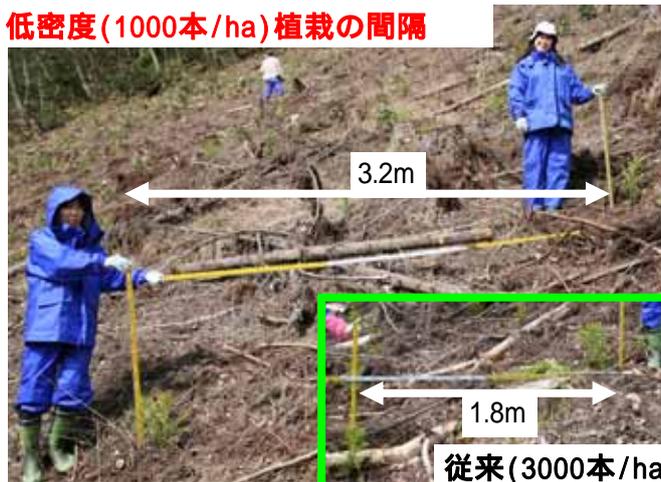
- ・ 大苗を利用した下刈作業の軽減(下左図)
- ・ 植栽本数を減らして間伐の軽減(下右図)

伐採された天然広葉樹林の再生状況の調査

- ・ 樹木の種類，切株から出る新芽の発生状況など



低密度(1000本/ha)植栽の間隔



研究状況

放置された人工林伐採跡地の調査

タケやササに覆われるところが多く観察されました。 **森林の再生に悪影響**

低コストでできる森林再生技術の試験

試験地の設定を完了し，継続調査を開始しました。

大苗を利用した試験(出雲市) 植栽本数を減らした試験(雲南市)

伐採された天然広葉樹林の再生状況の調査

試験地の選定を進めています。

研究成果の活用

この研究の成果によって森林再生方法の選択肢が増え，林業経営，環境面から伐採地の状況に応じた方法で森林の再生が可能になります。これによって，森林の持続的利用が促進されます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

所属グループ：森林保護育成グループ

担当研究者：山中啓介(やまなか けいすけ)

問い合わせ先 0854-76-3820

E-mail: chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名：皆伐・択伐林の低コスト更新技術の開発 (研究期間：H19～22)